

令和 7 年 10 月 31 日

泉南市議会議長
堀 口 和 弘 様

厚生文教常任委員会
委員長 竹 田 光 良

厚生文教常任委員会行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、その概要を報告いたします。

- 1、視 察 日 令和 7 年 10 月 16 日（木）～17 日（金）
- 2、視 察 参 加 者 委 員 長 竹 田 光 良 副委員長 添 田 詩 織
委 員 中 田 佳 子 委 員 松 本 直 也
委 員 竹 田 祐 平 委 員 楠 成 明
委 員 井 上 実 委 員 石 橋 正 敏
- 3、視 察 先 岡山県高梁市（10 月 16 日）
岡山県総社市（10 月 17 日）
- 4、調 査 事 項 岡山県高梁
①小中一貫義務教育学校「有漢学園について」
②高梁市立図書館を含む複合施設について
岡山県総社市
①ケアラー支援条例の制定について
②子育て王国まちづくり事業について
- 5、視 察 目 的

本市では、昭和 40 年代後半から 50 年代にかけて多くの公共施設が建設されましたが、老朽化、陳腐化が進み、今後、更新、大規模修繕を迎え、多額の費用が見込まれます。限られた財源を有効に活用し、効率的な行政運営が求められる中、公共施設の老朽化の課題に対し、本市では、公共施設の再編を進めていますが、高梁市では、いち早く、平成 29 年に公共施設の複合化を進め、JR 駅舎隣接の複合施設に図書館を開館し、利用者の利便性の向上に大きく寄与しています。

本年 4 月には、高梁市初の義務教育学校、有漢（うかん）学園が開校し、「地域ふるさと学習」、「英語学習」、「徹底反復学習」といった学習面での取り組みと地

域と連携した学校づくりが行われており、令和10年4月開校予定の（仮称）西信達学園の学校運営の参考とするため、視察いたしました。

また、少子高齢化による人口減少が進む中、総社市では、「子育て王国そうじゃ」というスローガンを掲げ、市を挙げて子育て支援を積極的に進めており、その結果、多くの移住者により人口増加に転じました。その理由として、妊娠期から子育て期まで「切れ目のない支援体制」により、安心して子育てができる環境づくりを進めていることがあります。また、日常的に病気や障害がある家族などの世話を行っている「ケアラー」についても、岡山県内で初めて制定され、孤立させないための取り組みについて、本市のケアラー支援の参考とするため、視察いたしました。

6、視 察 概 要

■岡山県高梁市（29,072人）

①小中一貫義務教育学校「有漢（うかん）学園について」

全国的に少子化が進行する中、高梁市においても、児童生徒数の減少により、小中学校の小規模化が急速に進み、将来にわたって義務教育の教育水準の維持が困難となることから、学校・地域の再生の一つとして、有漢東小学校と有漢中学校を統合し、令和7年4月に有漢学園が開校しました。

有漢学園は、1年生から9年生（小学校1年～中学校3年）までの一貫教育を行う義務教育学校で、近くには公民館や放課後児童クラブなどがあり、有漢地区の中心的な施設として、地域との連携や体験活動を重視した特色ある教育が行われており、地域、人、学校のつながりに力を注いでいます。

学校が進める「地域ふるさと学習」では、地域の住民とともに人との出会い、本物の体験を通じ、地域・学校の魅力を発見し、発信することで、子どもの主体的な学習と教育の質の向上につなげようとしています。また、公立中学校の休日の部活動が段階的に地域へ移行されることに伴い、高梁市では、将来、平日の部活動の停止も見据えて、地域で活動するサークル、文化協会などへの展開も進めているとのことでした。

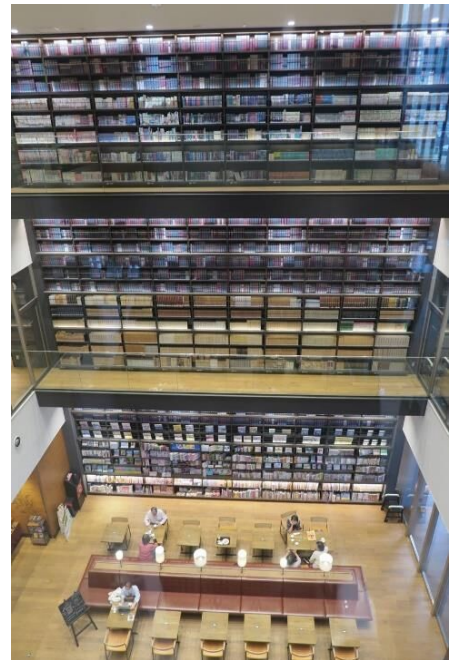
②高梁市立図書館を含む複合施設について

高梁市では、既存の図書館の老朽化などの理由により、新図書館建設の声の高まりにより、JR 備中高梁駅に隣接した複合施設内に「高梁市図書館」を開館しました。複合施設には、図書館のほかに、バスセンター、観光案内所、カフェを併設し、市の玄関口として、駅前の賑わいの創出と来訪者の交流拠点施設の機能



も兼ね揃えています。この施設の運営は、指定管理者制度により「TSUTAYA」や「蔦屋書店」などのプラットフォーム事業を展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC）株式会社が運営を行っており、市民がより利用しやすいよう、広々とした空間には、子ども用トイレや授乳室なども完備しており、子供連れでも使いやすい施設になっています。また、利用時間も年中無休で午前9時から午後9時まで開館しており、視察当日も利用者が多くありました。

開放感ある吹き抜けが特徴の図書館



■岡山県総社市（69,450人）

①子育て王国まちづくり事業について

多くの自治体が、人口減少や少子高齢化、地域衰退などの問題を抱える中、総社市は、人口増加率が岡山县内1位で、15年連続の転入超過となっています。岡山市、倉敷市の都市部へのアクセスのよさのほか、人口増による地域活性化として、結婚・出産支援、子育て支援、地域力の向上に積極的に取り組んでいます。市では、子育て王国を名乗ることで、街全体で子育てを支え、政策の優先順位を決める際には、市民に限らない子どものことを最優先にしています。

子育て王国そうじゃまちづくり事業は、総社市のキャラクター・チュッピーの商品開発やチュッピー子どもまつり（昔遊び、餅つき体



総社市のキャラクター「チュッピー」

験、料理体験、スポーツなど）、農業・食育体験として収穫料理教室などを開催することで、地域の特性を活かした事業を展開しており、地域の絆を大切に、困った人には手を差し伸べ、助け合い、支え合うことで、子育てしやすい総社市に移住を希望する方が多いとのことでした。また、総社市は、全国屈指の福祉文化先駆都市でもあり、出生から老後までのそれぞれの段階において、住民一人ひとりに寄り添った支援を実現するための部会が設置されており、問題解決に向けて対応してきた中で、見えてきたのがヤングケアラーの存在であり、学校に行けない、勉強が遅れるなど、ケアしている家族にも焦点を当てることで、ヤングケアラーを支援する条例の制定に至ったとのことでした。

②ケアラー支援条例の制定について

総社市では、ケアラーの孤立を防ぎ、早期発見、支援するため、岡山県では初、全国では4例目となるケアラー支援条例を令和3年9月に制定し、地域や福祉機関などと連携して、自分らしく健康的で文化的な生活を営むことができる社会の実現を目的とし、ヤングケアラーを18歳未満と位置づけ、必要な支援へとつなげています。ヤングケアラーの支援については、総社市では、妊娠期から出産・産後・乳幼児期・学童期、18歳まで保育園、幼稚園、小中学校などと連携して、特に、アンケートから判明した児童生徒に対しは、本人・家族にも聞き取りを行い、個別のケースに対する具体的な支援を行っています。支援にあたっては、条例でも、本人の意向を尊重することと明記されており、情報の提供や関係機関へ適切につながることとされています。条例を実効性あるものにするためには、ヤングケアラーへの理解と普及啓発を進め、教職員、民生・福祉委員の見守りの目を増やすことによって、発見が難しいヤングケアラーの早期発見、支援につながるのではないかと考えています。また、令和4年にヤングケアラーコーディネーターを配置したことで、相談窓口の一本化、相談体制の強化につながる成果もあったとのことでした。



地元の木材を使った議場

7、視察を終えて

10月16日(木)から17日(金)の二日間にわたり行った、今回の視察は心配された天候は、雨に降られることもほとんどなく無事に実施することができました。

特に、当委員会の視察をこころよく迎え入れて頂いた、高梁市の教育委員会の皆様並びにCCC（カルチャア・コンビニエンス・クラブ株式会社）の方々及び、議会事務局の皆様。

総社市の三宅議長並びに保健福祉部こども課の皆様及び議会事務局の皆様には、大変お世話になり貴重なお話をお伺いし、心からの御礼と感謝を申し上げます。

一日目の高梁市では、義務教育学校の「有漢学園」を直接訪れることができなかったのが残念ですが、高梁駅とバスセンターと一体となっている高梁市図書館で研修をお受けしました。

本施設は、蔵書数約15万冊という堂々とした図書館であり、スターバックスコーヒーや蔦屋書店が入って、令和6年度の入館者数が約51万人ということです。

高梁市の人口が約2万9千人ということですから、市内外からどれほど誘致してい

るかが分かります。

それほど魅力的な施設であることは間違いなく、あわせて、読書離れが進む子ども達は勿論、大人も本に親しみ、市民の交流拠点になっていることが推察されます。

高梁市は、もう一度申し上げますが人口2万9千人です。泉南市は約5万8千人です。各委員は、約3万人の差がある高梁市にこの施設ができて、泉南市にはできないのか、あらためて自問したに違いありません。

この図書館建設並びにCCCさんの誘致については、ズバリ高梁市長の情熱とお聞かせいただきました

無論、建築費用や指定管理料の財源となる根拠も必要です。そのどちらも高梁市はクリアした上での市長の情熱であることは間違いありません。

高梁市は、ご存じの通り、観光にも力を入れており、「備中松山城」や「吹屋ふるさと村」は全国的にも有名な財産があります。

このような観光資源とともに、新たな高梁市図書館も加え、これからの人口減少にどう立ち向かわれていくのか、また、あらためて訪問させて頂きたいと思いました。

二日目の総社市では、まず、出迎えて頂いたのが出来立てほやほやの新庁舎でした。これは、本当に羨ましかったです。

8階の展望から市内が見渡せ、意外だったのが、まちは高層建築物が少なく、マンションやビルなどが建ち始めたのが最近のこととのことでした。

ただ、見渡す限りの土地には新たな居住区を建設する場所がないとのこと。

つまり、それだけ毎年人口が増加しているのが総社市の魅力です。

その背景には交通の利便性や、雇用促進並びに子育て支援の充実があげられます。

県内或いは中国地方ではずっと「住み続けたいランキング」1位だそうで、15年連続で転入超過とのことでした。

私たちの視察目的である「子育て王国まちづくり事業」については、すべての取り組みが点から線になっていると感じました。

そして何とんでも「子育て王国」というフレーズが分かりやすく、アピール度抜群であると言えます。

新庁舎の前には、旧庁舎がまだそのままでした。

これから徐々に解体作業に入っていくそうです。

因みに旧庁舎は、どこことなく泉南市の庁舎と似ており、お聞きすると建設年度が泉南市の庁舎と変わらないようです。

総社市さんは、人口が今後も増加傾向であるとのこと。

そのことにプラスして、新庁舎建設と子育て世代の移住などの取り組みが功を奏し、まちの勢いを感じました。

泉南市でも、未来への展望が開かれるような取り組みをしていきたいし、ワクワクするようなまちづくりを議会としては議論を展開してまいりたい。